

平成27年9月17日

能美市議会議長
米田 敏勝 様

交通対策特別委員会
委員長 田中 策次郎

交通対策特別委員会行政視察報告書

- 1、期 間；平成27年8月10日（月）～11日（火）
- 2、視察先；① 埼玉県久喜市役所菖蒲総合支所、久喜市役所
② 新潟県長岡市山古志支所
- 3、目 的；デマンド・コミュニティ交通の現状や課題把握による今後の指針について
- 4、参加者；田中 策次郎、近藤 博、山口 慧子、北野 哲
嵐 昭夫、橋本 崇史、（随行）谷田企画振興課長

視察目的

久喜市、長岡市山古志地区のデマンド交通やコミュニティバスの取り組むことになった経緯やシステムなどの現状、取組後の成果と課題を研修することにより、能美市においても誰もが健康で安心して暮らせる交通環境を目指し、交通弱者の移動手段と公共交通不便地域における日常交通の確保のため、コミュニティバスなどの公共交通のあり方や交通対策特別委員会の今後の指針となるべく視察を行った。

デマンド交通とは

デマンドは「要求、要請」の意味。利用者が電話などで乗車を予約し、エリア内で乗り場や行き先が希望できる。利用者がいなければ走る必要がなく、小型車で済むことから経費削減にもなり、バスが走れない狭い道でも運行ができる。タクシーのような希望時間の乗車が必ずしも可能ではなく、乗り合いとなるため、すぐに目的地までいけないこともある。全国デマンド交通システム導入機関連絡協議会によると、導入した自治体は37である。

8月10日（月曜日）

★久喜市菖蒲総合支所

（予約システム、車両見学、運行事業社社長より説明）

・運行事業社の菖蒲タクシー有限会社の明野社長より、運行車両のリフト付きワゴン車とセダン車で特にワゴンタイプ（車いす対応）の車いすの取り付けなどにおける注意事項と受付やコンピューターシステムの導入などの説明を受ける。

・市からの補助金は無く、菖蒲地区と栗橋・鷲宮地区での各2台計4台の車両やシステム導入における投資については市との5年契約の入札で運営であるとの事。また、運行上の問題点としては利用者から時間に対する苦情が多いということでした。注意点としては、導入時にお客様へのデマンドの理解や対象者の設定が必要であるとの事でした。（理由として40代の主婦がタクシー代わりに使うことが多く、交通弱者対策としてのデマンド交通と矛盾に感じる。）

・明野社長の取り組み理由としては業務内容からして利益はないが、タクシー会社の経営者として、公共的な仕事をするにより地域社会への貢献と信用・信頼性を高めたいとのことでした。また、久喜市にはバス会社4社タクシー会社8社があるが、デマンド交通に入札したのは菖蒲タクシー1社だけであった。

★久喜市役所菖蒲総合支所

（市としてのデマンドへの取り組み経緯・現状や課題の説明）

・最初に、井上市議会議長よりご挨拶、市民部生活安全課齋藤課長より経緯・現状の説明。

久喜市の概要・デマンドバス経緯

- ① 平成22年3月23日1市3町（菖蒲町、栗橋町、鷲宮町）の合併で、154,552人、63,169世帯で埼玉県北東部に位置し、都心まで50Km圏であり、市全域がほぼ平坦である。
- ② 合併後、公共交通検討委員会条例の制定により、6回にわたり委員会が開催され、基本方針として久喜地区は従来通りの市内循環バス、合併3町はデマンド交通としての報告書を作成し、平成25年10月22日から運行開始した。
- ③ 運行地区 ; 久喜市を真ん中に茨城県側の栗橋・鷲宮地区と反対側の菖蒲地区の2地域で運行開始
- ④ 運行車両 ; リフト付きワゴン車とセダン車(夜間はタクシーとして利用可)各1台で合計4台
- ⑤ 運行ダイヤ ; 日曜・祝日・年末年始以外（H26年度 293日）
1日一台あたり10便、7～17時（12時の便なし）
- ⑥ 運賃 ; 300円、回数券3000円（11回分）障害者は150円、小児無料
- ⑦ 利用対象者 ; 事前に登録をしている市内在住、在勤、在学者

- ⑧ 予約受付 ; 1週間前から30分前まで(電話、ファックス)
- ⑨ 利用人数 ; H26:17,091人(58.3人/日)内70~80歳代の高齢者で
71.1%の構成比
- ⑩ 運賃収入 ; H26:4,265,850円、委託料39,215,898円、合計が総経費
- ⑪ 利用状況 ; 登録者数 4,607人(男性1,849人、女性2,758人)
- ⑫ 利用者数 1,306人(男性 394人、女性 912人)
割合 28.3%
- ⑬ 課題 ; 乗降ポイント、民間路線バスや市内循環バスとの乗り継ぎ、運航日、運行
時間帯、利用料金、運行区域などの運行内容について、公共交通会議の中で課題解決し
ていきたい。

8月11日(火曜日)

★新潟県長岡市山古志支所

中越防災フロンティア 田中理事長、長岡市地域振興課 地域振興・防災係 平澤係長より「クローバーバス」の取り組み経緯、現状、今後の課題などについて説明を受ける。

・平成19年12月に山古志・太田地区路線バスが廃止され、平成20年4月から両地区の公共交通について学識経験者らと共同研究を開始し、その研究をもとに提案されたのが地域の全世帯が参加する「クローバーバス」運行であった。中越防災フロンティアは、その提案に賛同し、最大5年の期間限定で運営主体となり、クローバーバスの運行を開始した。当初は基幹路線のみの無料コミュニティバスで、山古志地区14か所の地区はデマンドで運行していた。平成25年3月には中越防災フロンティアの運営を地域へ移行し、平成26年4月からは長岡市の補助によりデマンドは終了し、過疎地有償運送へ運行方法を変更し、また同年から小・中学のスクールバス中止になり、クローバーバスが肩代わりするようになった。

・平成26年度乗車実績 39,947人

・平成26年度収支実績 バス運行経費 42,640千円

主として、委託料(運転手などの人件費)24,000千円、マイクロバス1台、ハイエース6台の燃料代、4台のリース料など

収入はNPO負担と運賃収入5,997千円、長岡市の補助金36,393千円である。
運賃は大人200円、小人・障害者等100円

課題その他質疑事項

・田中理事長は山古志出身であり、ボランティアとして運営できるのはメンテナンス会社の社長でもあり、収入が確保されているからとの事。また、運転手は自社の社員を時給でお願いするなど経費削減に努めているなどの苦労話を聞きました。

・他市町と同じく、若者が少なくなり、人口が減り続けている。

・デマンド交通は時間などのクレームや、わがままなお客が多くなった。また、無料運行時には年配客が頼みづらかったという声も多かった。

・その他中越防災フロンティアはクローバーバス運行事業以外に、やまこし復興交流館、被災地視察会、越後雪かき道場事業を展開している。

平成16年10月23日の中越地震からは塞翁が馬で、より団結力が強まっている感じがあった。

■ 視察研修報告要点

・両地区とも必要に迫られて運行実施に至ったが、事前に住民理解を進めており、利用者を中心に事業内容を決めている。

・実施者は民間にあり、住民代表のような形式である。

・初期投資は市が補助金なし。5年契約でリース契約や年間経費が計算でき、利益は追及できなくとも安心して運営できるような助成体制である。

・実施者、市、利用者の役割分担が明確になっている。

・コミュニティバスとデマンドバスなどの組み合わせが必要ではないかと勉強した。

■ まとめ

・誰もが健康で安心して暮らせる交通環境を目指し、交通弱者の移動手段と公共交通不便地域における日常交通の確保のため、コミュニティバス、デマンドバスなどの公共交通のあり方においてと同時に、経費を抑えより満足度を高めるためには、

第一には、メインターゲットの利用目的、頻度等を調査し、需要を明確にすることである。

第二には、その必要とする地域全住民が関心を持ち、その地域の資産とするような意識改革が必要ではないか。

第三には、誰が実施者となるのか。視察先での共通点は民間事業者またはボランティア団体の運営であった。責任体制を明確にすることで、経費削減や改革ができると考える。

第四には、全ての満足ではなく、最大公約数の満足体制で十分であることを感じました。

第五には、能美市福祉課が推進している地域包括ケアシステムの構築において、高齢者の交通弱者には健康な高齢者が助け、地域の問題点はその地域の課題として共助の精神で解決していけるような施策を展開している。今後は共助によるボランティア団体の支援、デマンド、コミュニティ各交通手段をミックスしたかたちでの運営が求められる。